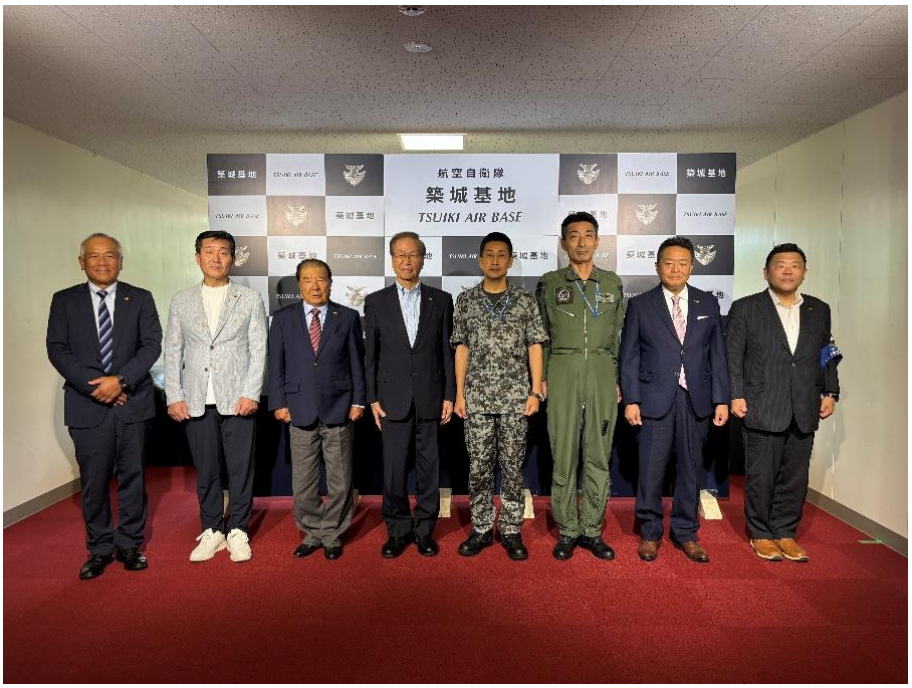
空を支える力

― 航空自衛隊 築城基地研修記 ―

令和８年１０月２日（金）より２泊３日で、福岡県築上郡に所在します航空自衛隊築城基地（第８航空団司令：空将補 中谷 大輔）へ、大高会長、森副会長以下１５名の会員の皆様と基地研修に行って来ました。
まずは、中谷第８航空団司令を表敬訪問し、当協力会役員５名にてご挨拶ならびに懇談のお時間をいただきました。基地入場時には、基地周辺で行われていた基地反対運動の様子を実際に目にしました。
懇談の中では、同運動が毎月２日に行われているとのお話も伺いました。
自衛隊協力会の理事として、特に印象に残る出来事であり、当会の役割について改めて考える良い機会となりました。



（中谷団司令と前床副団司令に表敬訪問）



昼食は基地内の幹部食堂でいただきました。
この日のメニューはステーキでしたが、幹部用の特別メニューというわけではなく、当日の食事は皆同じとのことでした。
また、海上自衛隊のように毎週金曜日が必ずカレーというわけではなく、日々さまざまな料理が提供されているとの説明を受けました。
ステーキは、焼きたてを一人ずつ提供できるような環境ではないにもかかわらず、焼き加減もよく、想像以上に質の高い食事でした。思わず「赤ワインが欲しい」と感じたほどでした。





昼食後は、松本監理部長より築城基地の生立ちから現在の運用等まで丁寧に説明をして頂きました。
とても分かりやすい説明でよく理解することができました。
質疑応答では、皆さん活発過ぎて時間が足りなくなるほどでした。
見学の合間には、金城人事部長が、ご親戚が大和市にお住まいというご縁から、休憩時間を割いてわざわざ声を掛けに来てくださいました。短い時間ではありましたが、こうした細やかな気遣いに触れ、人と人とのつながりを大切にされている姿勢が特に印象に残りました。
こうした気遣いのできる方だからこそ、人事を担う立場にいらっしゃるのだろうと感じました。



続いて、航空機火災等に対応する消防・救難部隊の装備について説明を受け、航空機用大型消防車による放水展示を見学しました。大型消防車は走行しながら放水することができ、車両上部・前部・下部の放水装置を状況に応じて使い分けるとのことでした。隊員は航空機救難時には防護服と空気呼吸器を合わせ約 20kg の装備を身に着けて活動するとの説明を受けました。



（放水車ローゼンバウアー）



（防火衣及び装備品）

管制塔業務及びレーダー設備についても説明を受けました。

設備や業務内容については厚木基地で見学した内容と共通する部分も多かったが、築城基地は東側が海に面し、それ以外を山に囲まれているため、航空機の視認が難しい環境にあるとの説明でした。そのため、管制業務には高い集中力と視認力が求められることが印象に残りました。また、実際に F-2B のコックピットに搭乗させていただき、操縦桿やスロットルなどにも触れることができました。

私自身、ゲームが好きで航空機の操作について多少の知識は持っていたつもりでしたが、実機にはレーダー、無線、ディスプレイ、兵装など数多くの操作系統が配置されており、その多さに圧倒されました。

さらに足でも機体を操作するのです。

説明を聞きながら思わず「忙しいですね」と口にしたほどで、「手が 4 本あっても足りない」と感じました。

これらを飛行しながら瞬時に操作するためには、想像していた以上に高度な訓練と習熟が必要なのだろうと実感しました。今回の研修を通じ、自衛隊の任務を支える隊員の皆様の技量と日々の訓練の積み重ねを、より身近に感じることができました。



（F-2B のコックピットから手を振る大高会長）

研修終了後は、私が懇親会会場として希望した、鰻の名店「田舎庵 小倉本店」にて懇親会を行いました。
「情熱大陸」をはじめ各種メディアでも紹介されている名店で、参加者同士で一日の出来事を振り返りながら親睦を深め、充実した研修初日を締めくくりました。




2 日目は小倉城を見学した後、門司港周辺を自由散策しました。
港には砕氷艦「しらせ」が停泊しており、内部見学も考えましたが、最後尾には 180 分待ちの表示。
残念ながら見学は諦め、門司港ミュージアムからその雄大な姿を眺めました。








（左上　小倉城前で記念撮影　右上　小倉城内で流鏑馬体験　左下　しらせ待ち時間表示　右下　しらせの全貌）

その後はフェリーで下関へ渡り、ふく料理を味わったほか、壇ノ浦や赤間神宮、唐戸市場などをそれぞれ散策しました。
さらに巌流島へ渡り、宮本武蔵と佐々木小次郎の決闘に思いを馳せ、歴史のロマンに触れる時間となりました。





（右下：宮本武蔵と佐々木小次郎の像）

私自身、小倉はこれまでにも何度も訪れている馴染みのある街です。
それでも、自衛隊協力会の理事という立場で基地を訪れ、そこで働く方々の話を聞き、普段は見ることのできない仕事や日常に触れたことで、これまでとは少し違った視点で物事を見ることができたように思います。
特に印象に残ったのは、設備や装備そのものよりも、そこで働く方々の姿勢や、何気ない気遣いでした。
そうした一つ一つの出来事を持ち帰り、今後の協力会活動の中で少しでも生かしていければと思います。
今回の研修にあたり色々とご尽力くださいました中谷団司令、前床副団司令、太田渉外室長以下ご支援をいただきました関係各部の皆様方に厚く御礼を申し上げます。本当にありがとうございました。

（文：理事　菊地　聡）